

ISESE2006報告

神谷芳樹
2006-10-16
NAIST,IPA/SEC



基調講演 : V.Basili; Is there a future for Empirical Software Engineering?

論文発表 : フルペーパー40件 (応募87件)、ショートペーパー17件 (応募38件)、ポスター

日本から ; 有人宇宙システム : 中尾さん (ハワイ大 / JAXAと共同)

奈良先端大 : 亀井さん

メリーランド大 : 中村さん (フルペーパー)

パネル :

次回 : ESEM 2007

1st International Symposium on
Empirical Software Engineering and Measurement

Incorporating ISESE and Metrics

Madrid, Spain 2007-9-20/21



A Proposed Method for Building a Database of Project Measurements and Applying it Using Collaborative Filtering

Yoshiki Mitani^{1,2}, Nahomi Kikuchi², Tomoko Matsumura¹, Naoki Ohsugi¹, Akito Monden¹,
Yoshiki Higo³, Katsuro Inoue³, Ken-ichi Matsumoto¹

1)Nara Institute of Science and Technology (NAIST)

2)Information-technology Promotion Agency, Japan (IPA). Software Engineering Center (SEC)

3)Osaka University

A proposed method for using in-process measurements

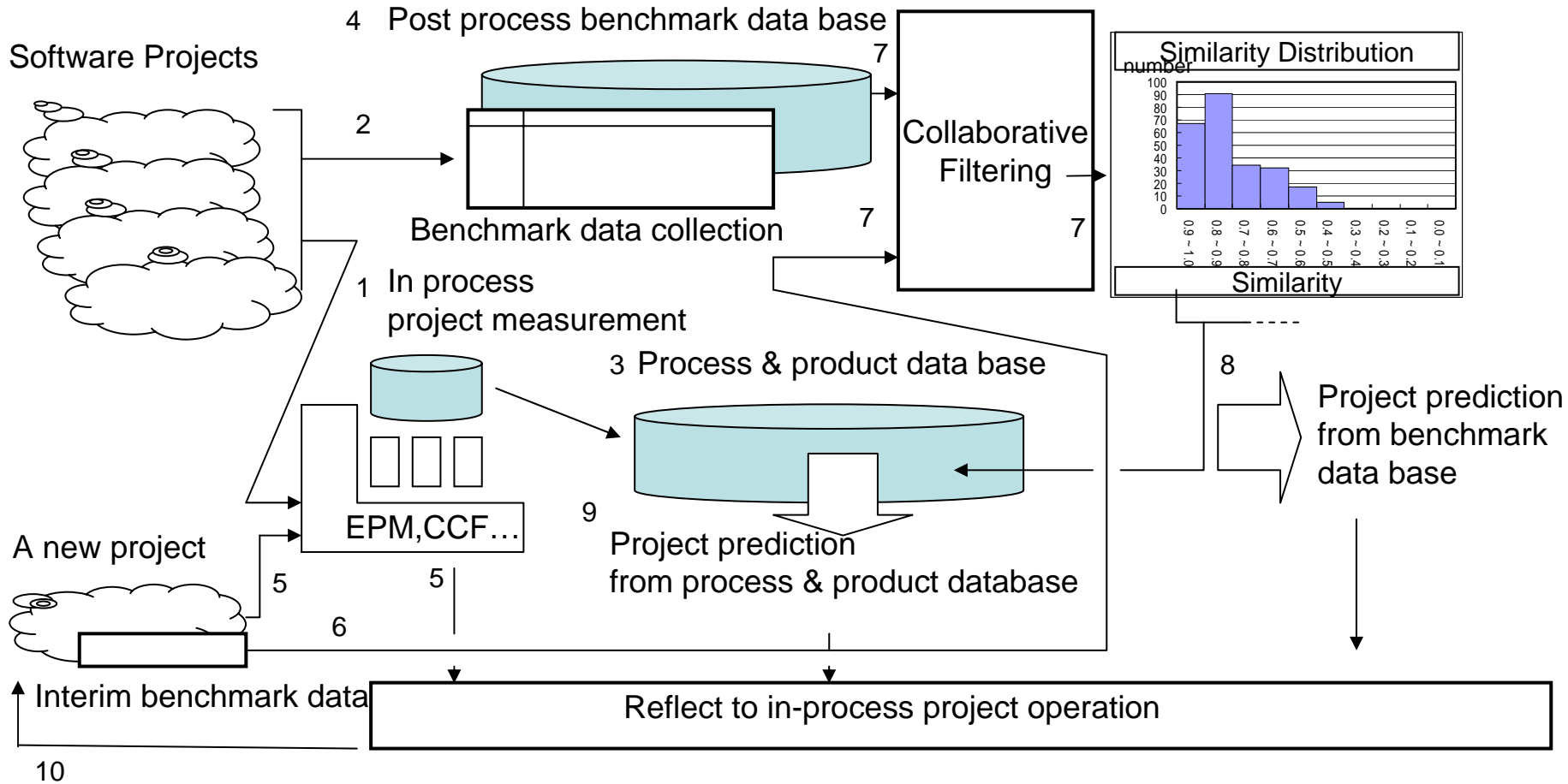


Fig.5 (Fig.2) Project prediction by collaborative filtering with two kind of project database

ISESE2006パネル

2006-9-21/22 リオデジャネイロ(ブラジル)

タイトル: Grand Challenges in Empirical Software Engineering

「エンピリカルソフトウェア工学の大いなる挑戦」

Chair. Jose Maldonado(ブラジル)

Natalia Juristo(スペイン), D.Rombach(ドイツ)

B.Boehm(アメリカ), G.H.Travassos(ブラジル)



全体を通して

- エンピリカルソフトウェア工学の指導者たちは、この新しい、未成熟な学問領域の確立のため熱意有る努力を積み上げている。
- 例
 - 5月: ICSE2006でのV.Basili教授招待講演: エンピリカル論文の書き方
 - →エンピリカル研究の仕方
 - 5月: ICSE2006でのD.Rombach教授のリーダーシップ(産学連携)
 - ISESE2006: 基調講演; V.Basili 教授
 - エンピリカルソフト工学のアピール(ブラジルのコミュニティに)
 - ISESE2006: パネル
 - ブラジルのコミュニティへのアピール(BRICs)
 - 2003年秋、東京でのEASE国際フォーラムを彷彿とさせる。
 - D.Rombach教授: ISERN15年を振り返って、新しい学問確立には15年は決して長くはない
 - ISESE2006: 新企画: ドクターシンポジウム
 - 今回スクール: M.Zelkowitz教授の調査・研究提示
 - 1994-98年調査→2006年調査
 - エンピリカル・ソフトウェア工学の考え方の浸透を裏付ける
 - ISESE2006: 論文の書き方チェックリストの論文: NICTA
- 今更ながら、研究環境確保の重要性

皆で力を合わせて、
考え方、研究の仕方、
を繰り返し述べ、
査読競技(*)に反映し、
様々な機会をつくり、
人を養成し、
データで裏付ける